

# 防災図書紹介

風水害情報研究会・編  
環境防災総合政策研究機構・発行  
定価・1200円(税込)

## 風水害情報ガイドブック

気象庁が発表する注意報や警報をもとに避難情報を出すのは市町村だ。どの時点で避難情報を出すかは地方自治体の判断に委ねられており、防災担当者からは適切なタイミングをはかるのが難しいという声があった。また、気象情報を読み解くための防災用語自体が難しく分かりにくいという感想もある。

今年から国土交通省では洪水等に関する防災情報体系の見直しを行い、用語の名称を情報の受け手(市町村や住民)の行動に繋がるような言葉に改善している。

さらに本書ではカラーの絵と文字で一目で分かるようになった「洪水等に関する防災用語の現行と改善対応一覧図」も掲載。このままコピーして壁やボードに貼ることも出来るような資料だ。

「風」の風圧、時速、平均風速は、本書の「用語解説」の何ページへというアドバイスが付いている。

警報、注意報といった法令用語の解説は第4章にまとめられている。大雨の災害でも、短時間の集中豪雨と何日も降り続く雨があるので1時間降水量、3時間降水量、24時間降水量を設定しているそうだ。注意ポイントを含めてよく読んでおきたいもの。

地方自治体にとって役に立つのは「発表文の見方・読み方」の項目。気象台や河川管理者の過去の発表情報文を解説している。例えば「猛烈な一冊だ。

